

第3章 分野別計画

基本構想で示したまちづくりの目標に沿った9つの「分野」の下に、23の「取組分野」を設定します。

分野別計画は、この23の「取組分野」ごとに、まちの将来像を実現するための、「施策の基本方針（施策が目指す姿）」、「成果指標」、「施策方針」等を示します。

分野別計画の見方

1 分野

基本構想で示した9つのまちづくりの目標に沿って、該当する分野を示しています。

2 取組分野

9つある「分野」をさらに細分化したものです。この「取組分野」ごとにまちの将来像を実現するための基本となる施策を示しています。

3 現状と課題

取組分野を取り巻く現状と、今後どのような課題を解決する必要があるのかをまとめています。

4 重点施策方針

第2章で記した3つの重点施策方針のうち、いずれの重点施策方針に関係しているかを示しています。

分野1 都市環境

1

1-2 交通基盤

現状と課題

2

3

現状

- 道路や橋梁等は高度経済成長期に整備したものが多く、老朽化が進行しています。
- 古くからの市街地では、住宅の建て込み狭い生活道路へ通過車両が流入する等、危険な状況となっており、道路改良や未整備の都市計画道路の整備等を進めています。
- 名鉄知多武豊駅及び名鉄富貴駅では、車両による駅へのアクセスが悪く、また駅前広場が整備されていないため、車両と歩行者が交錯する等、危険な状況となっています。
- 町内を中心にコミュニティバス等の公共交通網は整備されていますが、利便性が低い状況となっています。



みゆき通り

課題

- 道路や橋梁等の道路施設は、老朽化が進行しており、長寿命化や修繕等の必要があります。
- 生活環境と通過交通を分離し生活環境の向上を図るため、未整備の都市計画道路の整備を進めていくとともに、都市計画決定から長年経過し、現在も事業が着手されていない都市計画道路は見直しの検討をする必要があります。
- 名鉄知多武豊駅及び名鉄富貴駅は、車両と歩行者の交錯や送迎車両の道路への滞留を防ぐため、駅前広場等の整備を進める必要があります。
- 高齢者等が運転免許証を返納しても移動手段が確保されるよう、コミュニティバス等の地域公共交通の充実を図る必要があります。



5 施策の基本方針 (施策が目指す姿)

この取組分野が目指す方向性や将来のまちの姿を示しています。

6 成果指標

施策の成果を確認できる指標を設定し、現状(2018年)の「現状値」と、2025年の中間目標値、2030年の最終目標値を示しています。次に示す施策方針を進めることで各指標の目標の達成を目指します。

7 施策方針

施策の基本方針(施策が目指す姿)を実現するために行う各施策と、それぞれの主な取組方針を示しています。

8 関連計画

この取組分野に関連する施策や事業が掲載されている町の各課が主体となって進める個別計画を記載しています。

9 SDGsとの関係

この取組分野での施策を実施することで、推進できるSDGsの目標を掲載しています。

4

重点施策方針



5 施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 誰もが安全・安心で快適に移動できるまちを目指します。

6 成果指標

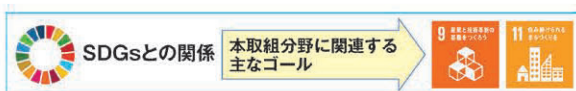
指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
車での移動しやすさの満足度	町民意識調査で「幹線道路が整備され車で移動しやすい」ことに「満足」または「やや満足」と回答した割合	31.0%	35%	40%
都市計画道路の整備率	町内における都市計画道路の整備が完了している延長の割合	55.5%	60%	65%
コミュニティバスの利用者数	1年間でコミュニティバスを利用した人数	61,617人/年	66,000人/年	67,000人/年

7 施策方針

(1) 道路や橋梁の適切な管理・修繕	①適切な時期に道路舗装の修繕を行い、安全・安心に通行できる道路を維持します。 ②定期的な橋梁の点検や適切な管理を行うことにより橋梁の長寿命化を図ります。
(2) 幹線道路の整備	①交通利便性の向上と、通過車両の生活道路への流入を抑制し安全・安心な住環境の確保を図るため、都市計画道路の整備を進めます。 ②都市計画決定から長年経過した未着手路線について、都市計画決定当時の情勢を勘案しながら、路線の見直しについて検討します。 ③武豊北インターチェンジ(仮称)の新設に伴う、交通形態の変化に対応した道路整備を検討します。
(3) 駅前広場の整備	①名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備を行います。 ②名鉄富貴駅の利用性向上のため駅周辺の整備を行います。 ③名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備の検討を行います。
(4) 公共交通の充実	①主に高齢者の交通利便性向上を図るため、鉄道駅・買い物・病院・公共施設を中心としたコミュニティバス路線等の地域公共交通網の整備を行います。 ②時刻表等が検索できる民間の情報検索サービスを活用し、気軽にコミュニティバスの停留所や時刻が調べられるようにする等、公共交通の利用者へのサービス向上を図ります。

8 関連計画

- 武豊町道路整備計画(2020年度策定 土木課)
- 武豊町橋梁長寿命化修繕計画(2016年度改訂 土木課)
- 武豊町地域公共交通網形成計画(2015年度策定 防災交通課)
- 武豊町都市計画マスタープラン(2020年度策定 都市計画課)



9

はじめに

基本構想

基本計画

都市環境

子ども

学び

健康・福祉

安全・安心

産業・交流

環境

まちづくり・地域経営

行財政

まちづくりの目標1

定住先として選択されるまち

豊かな自然環境と交通の利便性を活かし、良好で潤いのある環境の中で快適性を感じながら暮らせるまちをつくとともに、住宅地としての良好なイメージを形成し、町の将来を担う若い世代を中心に定住先として選択されるまちを目指します。

1-1 市街地・住環境

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 適正な土地の利活用が図られ、誰もが愛着を持って安心して快適に暮らせるまちを目指します。

施策方針

- (1) 駅周辺にふさわしいまちづくり
- (2) 住環境の整備
- (3) 集い憩える場づくり
- (4) 景観を活かしたまちづくり

町並み(遠景)



多賀ポケットパーク

1-2 交通基盤

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 誰もが安全・安心で快適に移動できるまちを目指します。

施策方針

- (1) 道路や橋梁の適切な管理・修繕
- (2) 幹線道路の整備
- (3) 駅前広場の整備
- (4) 公共交通の充実

榎戸大高線



コミュニティバス

まちの将来像

心つながり
みんなで作る
スマイルタウン

重点施策方針

1. 住みよいから、住みたいまちへ
2. 子どもの学び・育ちを応援するまちへ
3. みんなが元気に活動・活躍するまちへ

1-3 上下水道

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 将来にわたって安全で安定した上下水道を利用できるまちを目指します。

施策方針

- (1) 安定した経営基盤の維持
- (2) 上下水道施設等の整備・維持
- (3) 生活排水の適切な処理の推進

配水池 →



← 雨水ポンプ場

1-1 市街地・住環境

現状と課題

現状

- 名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺の中心市街地では、商店街の衰退により市街地としての魅力が低下しています。また、名鉄知多武豊駅西側では役場や消防支署等の公共施設が多く立地し、駅前というにぎわいを創出できるエリアの立地条件が活かされていません。さらに、一方通行の交通規制等、交通網が複雑である等、交通利便性も低くなっています。
- 北部では、面的な市街地整備により、良好な市街地の形成が進められていますが、南部には低未利用地が残っています。
- 町営住宅の老朽化が進んでいます。また、市街地には耐震性の無い住宅やブロック塀、空き家が多く残っています。
- 武豊中央公園のような大規模な公園が少なく、市街地には小規模な公園が点在しています。
- 埋葬に対する意識の変化から、多様な形式の墓のあり方が求められています。
- まちの拠点となる地区の景観形成や歴史的なまちなみ保存等が図られていません。

区分	面積(ha)	構成比(%)
市街化区域	1,101	100%
第一種低層住居専用地域	47	4.3%
第一種中高層住居専用地域	233	21.2%
第二種中高層住居専用地域	29	2.6%
第一種住居専用地域	165	15.0%
第二種住居専用地域	8	0.7%
準住居地域	18	1.6%
近隣商業地域	28	2.6%
商業地域	5	0.5%
準工業地域	95	8.6%
工業地域	28	2.5%
工業専用地域	445	40.4%
市街化調整区域	1,491	

課題

- 名鉄知多武豊駅からJR武豊駅において、まちの都市拠点としての整備を行うとともに、にぎわい創出や商業施設等、都市拠点としてあるべき機能の立地誘導を図る必要があります。
- 名鉄知多武豊駅西側における再開発等の市街地整備や、公共機能の移転に伴う公共用地への民間活力の導入等を検討する必要があります。
- 都市基盤が未整備の地区において、地区計画を策定する等、都市基盤整備を進めやすいまちづくりを行う必要があります。
- 耐震性の無い住宅の耐震改修及び、耐震性の無い住宅やブロック塀、老朽化した空き家の撤去支援等を行い、安全・安心な住環境の整備を進める必要があります。
- 公園の整備や維持管理を図るとともに、公園等の公共施設におけるイベント等、誰もが集い、憩える場所づくりを進める必要があります。
- 墓石を設けない新たな墓のあり方や墓の適正な管理につながる方法を検討する必要があります。
- 特色あるまちなみの保存や活用を進め、郷土愛の醸成やまちの魅力向上を図る必要があります。



祠峯公園 子どもたちと花壇づくり

重点施策方針



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 適正な土地の利活用が図られ、誰もが愛着を持って安心して快適に暮らせるまちを目指します。

成果指標

指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
町の中心部の魅力や活気への満足度	町民意識調査で「中心市街地がにぎやかに活気づいている」ことに『満足』または『やや満足』と回答した割合	11.3%	15%	20%
住環境への満足度	町民意識調査で「暮らしやすい住環境が整っている」ことに『満足』または『やや満足』と回答した割合	35.3%	40%	45%
公園を利用する人の割合	町民意識調査で「近所の公園や児童遊園を利用している」と回答した割合	25.8%	28%	30%



SDGsとの関係

本取組分野に関連する
主なゴール

1-1 市街地・住環境

施策方針

<p>(1) 駅周辺に ふさわしい まちづくり</p>	<p>①名鉄知多武豊駅周辺の面的な都市基盤整備による周辺交通網の再構築や公共機能の移転検討等、駅前にふさわしいまちづくりを進めます。</p> <p>②住民、地域、団体、NPO、企業との協働や、公共空間の利活用等によるにぎわいづくりを進めます。</p> <p>③鉄道、バス等の公共交通の利便性を活かしたまちなか居住や商業機能等の立地誘導を目指します。</p> <p>④名鉄富貴駅を地区拠点としてふさわしい駅周辺の整備を進めます。</p> 
<p>(2) 住環境の整備</p>	<p>①都市計画に基づく土地利用の推進や都市基盤整備、道路後退敷地の取得等により、良好な住環境の確保に努めます。</p> <p>②民間住宅等の耐震対策、老朽化した空き家等の撤去促進や、町営住宅の長寿命化等、良好な住環境の確保を支援します。</p> 
<p>(3) 集い憩える 場づくり</p>	<p>①公園施設や配置の見直しを図るとともに、誰もが愛着を持って利用や管理ができる公園としての整備・運営を進めます。</p> <p>②総合公園・自然公園を核に、南部地域を自然体験等交流拠点としての整備内容を検討します。</p> <p>③鉄道駅と交流拠点をつなぐ等の散策路の整備によるウォークアブル*²³なネットワーク形成や、関連イベント等、住民が集い憩える機会を充実するとともに、普段の生活で気軽に立ち寄れるみんなの居場所づくりを進めます。</p> <p>④まちの緑化を進めるとともに、身近に自然と触れ合える環境づくりを進めます。</p> <p>⑤樹木葬や合祀墓<small>ごうしぼ</small>等個々に墓石を設けない新たな墓のあり方を検討します。</p> 



(4)
景観を活かした
まちづくり

- ①大足・里中地区を中心とするみそ蔵のまちなみを始め、まちのシンボリックな景観を活かした歩いて楽しめるまちづくりを進めます。
- ②名鉄知多武豊駅周辺をまちの顔にふさわしい景観の整備を進めます。



関連計画

- 武豊町都市計画マスタープラン(2020年度策定 都市計画課)
- 武豊町営住宅長寿命化計画(2019年度策定 都市計画課)
- 公園施設長寿命化計画(2011年度策定 都市計画課)
- 武豊町建築物耐震改修促進計画(2020年度策定 都市計画課)
- 武豊町公共施設等総合管理計画(2016年度策定 総務課)

用語解説

*23 ウォークアブル……安心して拠点周辺や拠点間を徒歩等で移動できるとともに、移動しながらまちの魅力や自然を楽しむことができることを意味します。

1-2 交通基盤

現状と課題

現状

- 道路や橋梁等は高度経済成長期に整備したものが多く、老朽化が進行しています。
- 古くからの市街地では、住宅の建て込む狭い生活道路へ通過車両が流入する等、危険な状況となっており、道路改良や未整備の都市計画道路の整備等を進めています。
- 名鉄知多武豊駅及び名鉄富貴駅では、車両による駅へのアクセスが悪く、また駅前広場が整備されていないため、車両と歩行者が交錯する等、危険な状況となっています。
- 町内を中心にコミュニティバス等の公共交通網は整備されていますが、利便性が低い状況となっています。

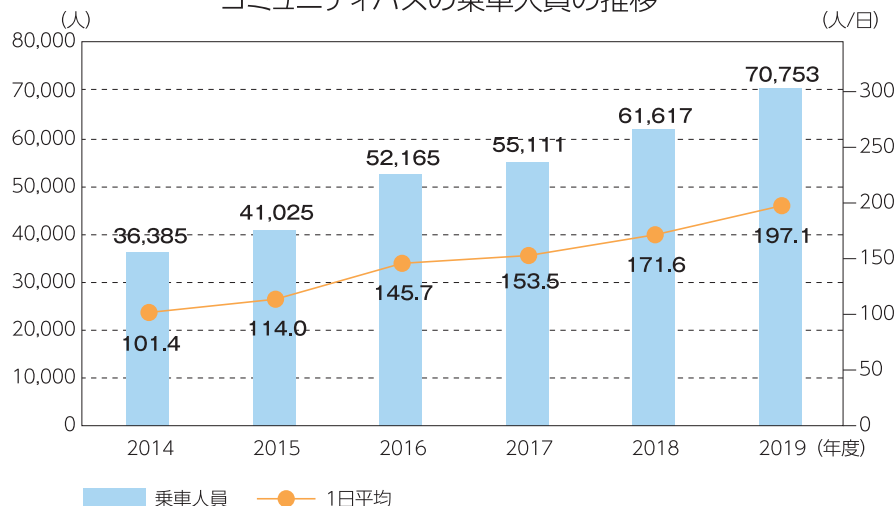


みゆき通り

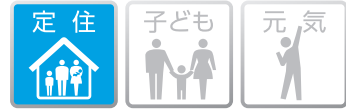
課題

- 道路や橋梁等の道路施設は、老朽化が進行しており、長寿命化や修繕等の必要があります。
- 生活環境と通過交通を分離し生活環境の向上を図るため、未整備の都市計画道路の整備を進めていくとともに、都市計画決定から長年経過し、現在も事業が着手されていない都市計画道路は見直しの検討をする必要があります。
- 名鉄知多武豊駅及び名鉄富貴駅は、車両と歩行者の交錯や送迎車両の道路への滞留を防ぐため、駅前広場等の整備を進める必要があります。
- 高齢者等が運転免許証を返納しても移動手段が確保されるよう、コミュニティバス等の地域公共交通の充実を図る必要があります。

コミュニティバスの乗車人員の推移



重点施策方針



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 誰もが安全・安心で快適に移動できるまちを目指します。

成果指標

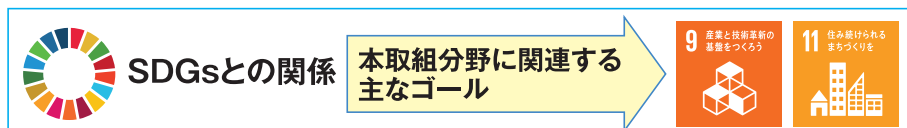
指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
車での移動しやすさの満足度	町民意識調査で「幹線道路が整備され車で移動しやすい」ことに『満足』または『やや満足』と回答した割合	31.0%	35%	40%
都市計画道路の整備率	町内における都市計画道路の整備が完了している延長の割合	55.5%	60%	65%
コミュニティバスの利用者数	1年間でコミュニティバスを利用した人数	61,617人/年	72,000人/年	73,000人/年

施策方針

(1) 道路や橋梁の適切な管理・修繕	①適切な時期に道路舗装の修繕を行い、安全・安心に通行できる道路を維持します。 ②定期的な橋梁の点検や適切な管理を行うことにより橋梁の長寿命化を図ります。
(2) 幹線道路の整備	①交通利便性の向上と、通過車両の生活道路への流入を抑制し安全・安心な住環境の確保を図るため、都市計画道路の整備を進めます。 ②都市計画決定から長年経過した未着手路線について、都市計画決定当時との情勢を勘案しながら、路線の見直しについて検討します。 ③武豊北インターチェンジ(仮称)の新設に伴う、交通形態の変化に対応した道路整備を検討します。
(3) 駅前広場の整備	①名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備を行います。 ②名鉄富貴駅の利便性向上のため駅周辺の整備を行います。 ③名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備の検討を行います。
(4) 公共交通の充実	①主に高齢者の交通利便性向上を図るため、鉄道駅・買い物・病院・公共施設を中心としたコミュニティバス路線等の地域公共交通網の整備を行います。 ②時刻表等が検索できる民間の情報検索サービスを活用し、気軽にコミュニティバスの停留所や時刻が調べられるようにする等、公共交通の利用者へのサービス向上を図ります。

関連計画

- 武豊町道路整備計画(2020年度策定 土木課)
- 武豊町橋梁長寿命化修繕計画(2016年度改訂 土木課)
- 武豊町地域公共交通網形成計画(2015年度策定 防災交通課)
- 武豊町都市計画マスタープラン(2020年度策定 都市計画課)



1-3 上下水道

現状と課題

現状

- これまで整備した上下水道の施設や設備は、適切に維持管理し、計画的に更新しています。
- 大規模地震の発生に備え、重要給水施設(小学校4校、武豊福寿園、くすのきの里、杉石病院、石川病院、役場)までの水道基幹管路(口径200mm以上の水道管)の耐震化を優先的に進めています。また、台風や大雨の発生に備えた総合的な雨水排水対策を図るため、2015年度(平成27年度)に武豊町雨水排水計画を策定し、雨水排水施設の整備に取り組んでいます。
- 下水道計画区域における下水道の面的な整備は完了し、下水道への接続を促進しています。また、下水道計画区域外では単独処理浄化槽や汲取り便槽から合併処理浄化槽への転換を進めています。
- 将来、人口減少が予想される中、節水型機器の普及等もあり、今後は水需要の増加を見込めない状況です。

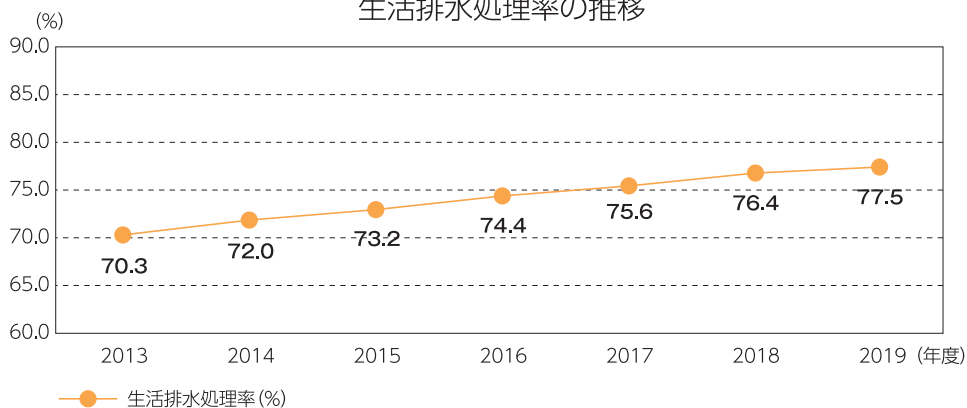


水道基幹管路耐震化工事

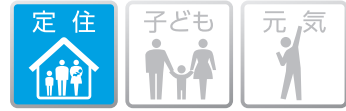
課題

- 収支のバランスを保ちつつ適切な維持管理と計画的な設備投資を行い、健全な事業経営と、安定した上下水道設備の維持・管理を両立する必要があります。
- 災害時において、ライフラインの機能を維持するとともに、被害低減のため、施設の適切な整備や機能向上を図る必要があります。
- 生活排水を適切に処理するため、生活排水処理基本計画に基づき、下水道への接続を促進するとともに、下水道計画区域外において、単独処理浄化槽や汲取り便槽から合併処理浄化槽への転換を促進する必要があります。

生活排水処理率の推移



重点施策方針



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 将来にわたって安全で安定した上下水道を利用できるまちを目指します。

成果指標

指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
下水道事業債年度末未償還残高	下水道施設の建設改良のために発行した事業債の残高	66.57億円	40億円	35億円
重要給水施設までの水道基幹管路の耐震化率	耐震管路総延長(km)÷管路総延長(km) (重要給水施設までの水道基幹管路)×100	58.5%	87%	100%
生活排水処理率	基準日(3月31日)時点の、下水道・合併処理浄化槽の汚水処理施設の整備人口 (2019年までは農業集落排水施設を含む)÷行政区域内人口×100	76.4%	80%	82%

施策方針

(1) 安定した経営基盤の維持	①安全で安定した上下水道を維持するため、水道事業ビジョン・下水道事業経営戦略に基づいた適切な維持管理と計画的な設備投資を行うとともに、健全な財政状況の維持に努めます。
(2) 上下水道施設等の整備・維持	①大規模地震の発生に備えるため、重要給水施設までの水道基幹管路の耐震化を進めます。 ②大雨に備えるため、雨水排水施設を適切に維持管理します。また、雨水排水施設への流入量を抑制するため、武豊町土地開発等に関する指導要綱に基づく指導を徹底します。
(3) 生活排水の適切な処理の推進	①河川等の水質保全を図るため、下水道への接続を促進するとともに、下水道計画区域外での合併処理浄化槽への転換を進めます。

関連計画

- 武豊町水道事業ビジョン(2020年度策定 上下水道課)
- 武豊町下水道事業経営戦略(2020年度策定 上下水道課)
- 衣浦西部流域関連武豊町公共下水道事業計画(2017年度改定 上下水道課)
- 武豊町雨水排水計画(2015年度策定 土木課)
- 武豊町生活排水処理基本計画(2017年度策定 環境課)
- 武豊町循環型社会形成推進地域計画(2020年度策定 環境課)



SDGsとの関係

本取組分野に関連する
主なゴール

まちづくりの目標2

安心して子どもを産み育てることができるまち

子育て世帯に対する充実した様々な支援とともに、安心して子どもを産み育てることができる環境をつくりまします。そして、一人ひとりの子どもが、個性や能力が育まれる教育を受けながら、健やかに成長できる環境をつくり、地域の様々な人々と関わる中で、これからの地域を担う人材が育つまちを目指します。

2-1 出産・子育て

施策の基本方針
(施策が目指す姿)

安心して子どもを産み育てることができ、働きながらでも子育てをしやすいまちを目指します。

施策方針

親子ふれあいひろば

- (1) 地域ぐるみによる子どもの健やかな育ちの促進
- (2) 子どもを産み、育てやすい環境づくり
- (3) 子どもがのびのび育つ環境づくり
- (4) 保育サービス等の充実
- (5) 支援を必要とする子どもと家庭への支援



サツマイモ苗植え

まちの将来像

心つなぎ
みんなでつくる
スマイルタウン

重点施策方針

- 1. 住みよいかから、住みたいまちへ
- 2. 子どもの学び・育ちを応援するまちへ
- 3. みんなが元気に活動・活躍するまちへ

海洋環境保全教室



水遊び

2-1 出産・子育て

現状と課題

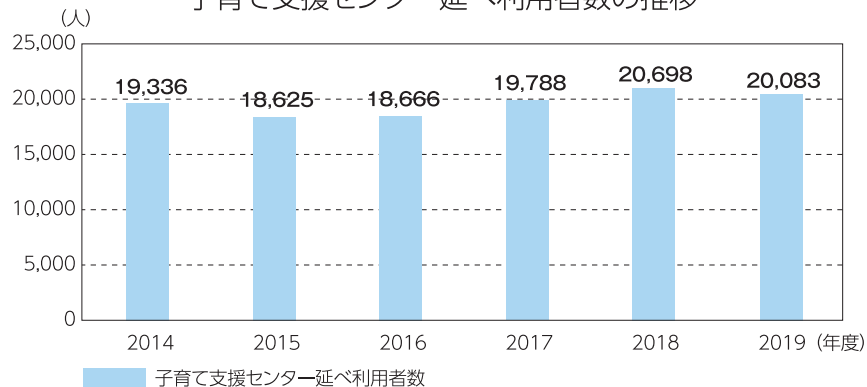
現状

- 子どもを取り巻く地域社会のつながりが希薄になっており、地域での子育て機能が低下しています。
- 少子化や核家族化は全国的な動向と比べると進行はやや緩やかながら、着実に進行しています。
- 少子化が進行している一方で、女性の社会参加や就業形態の多様化に伴い、保育ニーズは拡大かつ多様化しています。特に低年齢児保育の需要が大きく伸びています。
- 核家族化や家族形態の多様化・複雑化等を背景に、児童虐待通報件数が増加傾向にあります。また、事案が複雑化しています。



子育て支援センター

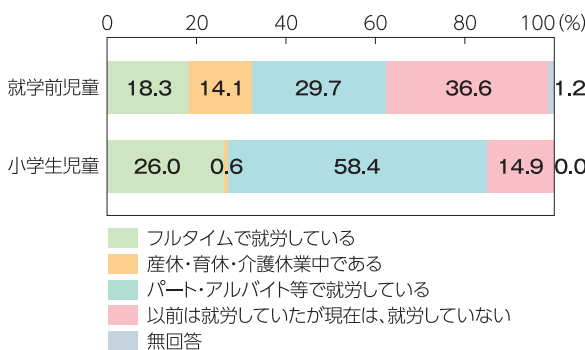
子育て支援センター延べ利用者数の推移



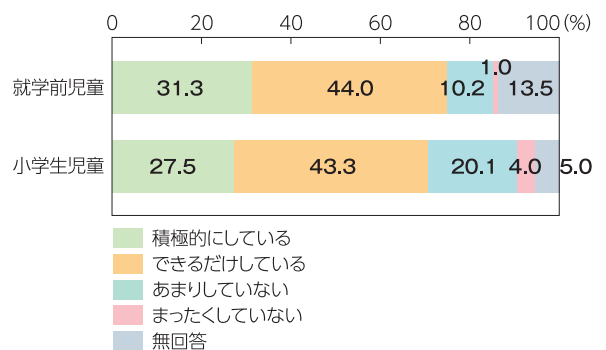
課題

- 孤立することなく安心して子どもを産み育てることができるように、地域での子育て、助け合いができる社会を構築する必要があります。
- 子育て中の親の精神的、経済的負担の軽減を図る必要があります。
- 将来的な少子化の進行を見定めつつ、拡大・多様化する保育ニーズへ柔軟に対応し、働きながら安心して子育てができるようなサービスを提供する必要があります。
- 虐待やそのリスクを抱えている家庭を早期に発見し、支援していく体制を構築する必要があります。

母親の就労状況



父親の育児・家事参加



資料：武豊町「子ども・子育て支援事業計画保護者アンケート」(平成30年度) 注：就労には育児休業中の人も含みます。

重点施策方針



施策の基本方針（施策が目指す姿）

- 安心して子どもを産み育てることができ、働きながらも子育てをしやすいまちを目指します。

成果指標

指 標	説 明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
子育てしやすさの満足度	町民意識調査で「子育てがしやすい」ことに『満足』または『やや満足』と回答した割合	22.2%	25%	30%
子育て支援センター延べ利用者数	当該年度における、1年間の子育て支援センターの利用者数	20,698人/年	24,000人/年	24,000人/年



SDGsとの関係

本取組分野に関連する
主なゴール



2-1 出産・子育て

施策方針

<p>(1) 地域ぐるみによる 子どもの健やかな 育ちの促進</p>	<p>①住民、地域、活動団体、NPO、行政が連携し、子育て支援を促進します。 ②子育て支援センターや子育て支援団体等、地域を拠点とした親同士、子ども同士の交流の拡大を推進します。 ③地域ぐるみで子どもを育てていく上で必要な住民の意識の向上と人材の確保に向けた啓発事業に取り組みます。</p> 
<p>(2) 子どもを産み、 育てやすい環境づくり</p>	<p>①子育て世代包括支援センター*24を設置・運営することで、切れ目のない支援を目指し、子育て世代が安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりを進めます。 ②保健センター・子育て支援センター等において、住民のニーズに合ったきめ細かい支援や啓発ができるよう、運営の充実を図ります。 ③子育て家庭を支援するため、児童手当等各種手当の支給や、子ども医療費等の助成を実施し、経済的負担の軽減を図ります。</p> 
<p>(3) 子どもがのびのび育つ 環境づくり</p>	<p>①公園や児童遊園等の整備・充実や交流の場の充実を図る等、子どもが安心して遊べる環境づくりを推進します。 ②総合型地域スポーツクラブ・子ども会等、子どもが地域社会の中で、自己肯定感を培いながらのびのびと育つ多種多様な機会・場づくりを進めます。 ③スポーツ、学習、趣味、集まる場等、それぞれの子どもにとって心地よい多様な選択ができる居場所づくりに取り組みます。</p> 

重点施策方針



<p>(4) 保育サービス等の充実</p>	<p>①低年齢児を中心とした保育ニーズの拡大と少子化に対応していくため、官民連携による効率的な保育施設の整備を進めつつ、質の高い保育サービスと量の確保を図ります。</p> <p>②女性の就労意欲の高まりによる児童クラブの需要増加を見据えて、児童クラブの整備等充実を図ります。</p> 
<p>(5) 支援を必要とする子どもと家庭への支援</p>	<p>①子どもの障がいの程度や発達段階に合わせた支援を行うとともに、障がいの早期発見、早期療育に取り組みます。</p> <p>②児童虐待に関する知識の普及や相談体制の充実を進めるとともに、要保護児童対策地域協議会において、各機関と協議し、具体的支援について適切な対応を図ります。</p> <p>③貧困が世代を越えて連鎖することのないよう、教育・生活・保護者の就労・経済的支援等必要に応じたきめ細かい支援を図ります。</p> <p>④ひとり親家庭が自立して安定した生活を営めるよう、保育サービスの提供、日常生活の支援等を行い、自立促進を図ります。</p> 

関連計画

- 第2期武豊町子ども・子育て支援事業計画(2019年度策定 子育て支援課)
- 第2次武豊町保育園等基本方針・整備計画(2019年度策定 子育て支援課)
- 第2期健康たけとよ21スマイルプラン(2012年度策定 健康課)
- 武豊町公共施設等総合管理計画(2016年度策定 総務課)
- 第2次武豊町障がい者計画(2017年度策定 福祉課)
- 第6期武豊町障がい福祉計画・第2期武豊町障がい児福祉計画(2020年度策定 福祉課)
- 第2次武豊町地域福祉計画(2017年度策定 福祉課)

用語解説

*24 子育て世代包括支援センター……妊娠・出産・子育てに関する各相談に応じ、母子保健施策と子育て施策との包括的な支援を行うことにより、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するものです。

まちづくりの目標3

楽しく学び、 いきいきとした生活ができるまち

人生100年時代を見据え、子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたって学び、生きがいを持って活躍できるまちを目指します。

そのため、区、NPO、ボランティア、文化・スポーツ等の様々な団体・グループの活動が活発に展開され、住民同士の交流に加えて、町外からも様々な人が集まり、にぎわいのある交流が生まれる等、いきいきとした生活を送ることができるまちを目指します。

3-1 学校教育

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 学校・家庭・地域・行政が連携を密にし、それぞれの役割を十分発揮し、協働して子どもの成長を支えるまちを目指します。

施策方針

- (1) 地域と行政が連携した教育の構築
- (2) 時代や社会環境に対応したきめ細かな教育の実現
- (3) 健全な心と体の育成
- (4) 学校生活における安全・安心の確保

プロの演奏に触れる
学校アウトリーチ(衣浦小学校)



運動会(富貴中学校)

3-2 生涯学習

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 誰もがいつでも、いつまでも、気軽に生涯学習に取り組むことができ、世代や地域、立場を超えて交流できるまちを目指します。

施策方針

- (1) ライフステージに応じた多様な学びの機会の充実
- (2) 学びの成果を活用できる機会づくりの支援
- (3) 学びの場、活動の場の整備・充実
- (4) 文化財・史跡等の保存と活用



縄ない体験(むかしのくらし展)

まちの将来像

心つながり みんなで作る スマイルタウン

重点施策方針

1. 住みよいかから、住みたいまちへ
2. 子どもの学び・育ちを応援するまちへ
3. みんなが元気に活動・活躍するまちへ

3-3 スポーツ

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 町内で行われるスポーツイベントやサークル活動に誰もが気軽に参加でき、多くの人と一緒に交流できるまちを目指します。

施策方針

- (1) スポーツ機会の拡充
- (2) スポーツ団体の活動支援
- (3) スポーツ施設の整備及び充実



ゆめたろう スマイルマラソン →

3-4 文化芸術

施策の基本方針
(施策が目指す姿) 誰もが気軽に文化芸術活動に触れ、参加でき、世代や地域、立場を超えて交流し、豊かな心を育むことができるまちを目指します。

施策方針

- (1) 文化芸術活動の育成・支援
- (2) 多様な交流による文化芸術の振興
- (3) 文化・芸術・科学に触れる機会の充実
- (4) 安全・安心で魅力的な文化芸術活動の場所の確保



Swing Band TAKETOYO →

3-1 学校教育

現状と課題

現状

- 学校教育における地域との連携が問われる中、職場体験・農業体験・ボランティア活動が定着しており、地域や行政と学校が連携した体験活動を行っています。
- 障がいのある児童生徒や、言葉や習慣に違いがある外国人児童生徒等、配慮が必要な児童生徒一人ひとりが安心して楽しく学校生活を送れるよう、生活支援員や特別支援員、国際交流員等の人的配置を適切に行い、きめ細かい体制の整備に努めています。
- いじめ、不登校問題に対応するため、スクールカウンセラー、適応指導教室指導員、養護教諭サポーター及びスクールソーシャルワーカーを配置し、悩みを持つ児童生徒に寄り添いながら支援体制を整備しています。

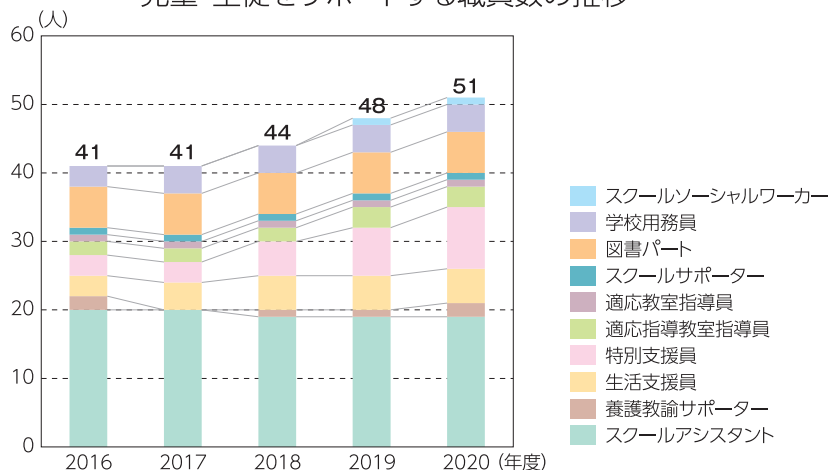


国際交流員

課題

- 2020年度(令和2年度)から新しい学習指導要領による教育が本格的にスタートしたことによって、プログラミング等ICT教育の実践が教育現場で必要になっています。
- 実践的な職場体験ができるよう業種業態を開拓する必要があります。
- 発達障がいやその傾向のある、配慮が必要な児童生徒数の増加が予想されるため、生活支援員等を充実する必要があります。
- いじめ、不登校問題にしっかり対応していくと同時に、深刻な事態に至ることを未然に防ぐため、自殺予防対策としての「SOSの出し方教育」を推進する必要があります。
- 今後不登校やいじめ等で悩む児童生徒の増加を想定し、適応教室指導員等の人員配置を充実する必要があります。
- ICT*25の普及に合わせて教育現場においても、無線LANの通信速度の向上やタブレット、電子黒板の整備や、ICT支援員の配置等ソフト・ハード両面でのICT化の必要があります。

児童・生徒をサポートする職員数の推移



重点施策方針



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 学校・家庭・地域・行政が連携を密にし、それぞれの役割を十分発揮し、協働して子どもの成長を支えるまちを目指します。

成果指標

指 標	説 明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
不登校児童人数(小学校)	武豊町における生徒指導上の諸問題調査において年間30日以上欠席した児童数	21人	18人	15人
不登校生徒人数(中学校)	武豊町における生徒指導上の諸問題調査において年間30日以上欠席した生徒数	57人	50人	45人
ボランティア活動への意欲	中学生意識調査で「地域をよくするための活動(区の活動やボランティア団体の活動)に参加してみたい」と回答した割合	44.2%	47%	50%

用語解説

*25 ICT……Information and Communication Technologyの略で、情報伝達技術、情報通信技術のことです。



SDGsとの関係

本取組分野に関連する
主なゴール



4

質の高い教育を
みんなに

5



ジェンダー平等を
実現しよう

12

つくる責任
つかう責任

3-1 学校教育

施策方針

<p>(1) 地域と行政が連携した 教育の構築</p>	<p>①地域とともにある学校づくりを目指し、家庭や地域住民と一緒に育てたい子ども像を共有し、その具現化に向けて教育目標や教育活動を充実します。</p> <p>②地域と行政が連携し、農業体験や職場体験、ボランティア活動等を充実させ、児童生徒の社会とのつながりを深めます。</p> 
<p>(2) 時代や社会環境に 対応したきめ細かな 教育の実現</p>	<p>①障がいのある児童生徒や、言葉や習慣に違いのある外国人児童生徒等、個別に配慮が必要な児童生徒が安心した学校生活を送るために、生活支援員や特別支援員、国際交流員等必要な人員を適切に配置します。</p> <p>②コンピュータや情報処理が中心となる社会において必要となる思考力や判断力を養うために、GIGAスクール構想*²⁶の実現に伴うICT*²⁵教育を促進します。また、それに伴い必要となる教育環境整備を進めます。</p> 
<p>(3) 健全な心と体の育成</p>	<p>①「いのちの教育」や防災ボランティア活動を通し、いのちの大切さを学習します。</p> <p>②いじめや不登校問題等で悩む児童生徒をケアするため、スクールカウンセラーや適応指導教室指導員、養護教諭サポーター、スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒への支援の強化に努めます。</p> <p>③栄養教諭による食育を通し、食の健康についての理解を深めます。アレルギー問題に対応するため除去食を準備する等個々の問題にも対応します。また食物アレルギーに対応する委員会を設置します。</p> 

重点施策方針



(4) 学校生活における 安全・安心の確保

- ①武豊町学校施設長寿命化計画に基づき、児童生徒が安全・安心に過ごせるよう学校施設の計画的な修繕・改修・更新工事を進めます。
- ②通学路安全対策連絡会を定期的に開催し、学校や地域、関係機関と連携しながら通学路の点検をします。危険箇所について適切な対応を実施します。
- ③児童生徒へ安全・安心な給食を提供するために、給食センターのあり方について検討します。



関連計画

- 武豊町公共施設等総合管理計画(2016年度策定 総務課)
- 武豊町学校施設長寿命化計画(2019年度策定 学校教育課)

用語解説

- *25 ICT……93頁参照。
- *26 GIGAスクール構想……児童・生徒に1人1台の学習者用PC端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する国の施策のことです。

3-2 生涯学習

現状と課題

現状

- 様々なサービスが充実した豊かな社会の中で、学びを通じて生涯をいきいきと過ごしていくことがより一層求められており、講座、教室等の必要性は高く、参加の仕方やニーズは多様化しています。
- 生涯学習にかかわるサークルや団体はこれまで数多く結成されましたが、中にはメンバー等の高齢化により存続自体が困難になってきているケースも多くあります。
- 講座や教室の参加世代には偏りがあり、20歳代から50歳代の現役世代の参加率が低く、サークルや団体の後継者が育っていない状況にあります。
- 各種講座や教室を開催するにあたり、多様化する住民ニーズに合った講師を確保することは容易ではありません。
- 団体の活動から個人の活動へ、町内の活動から広域での活動へと、生涯学習活動の形態にも変化がみられます。

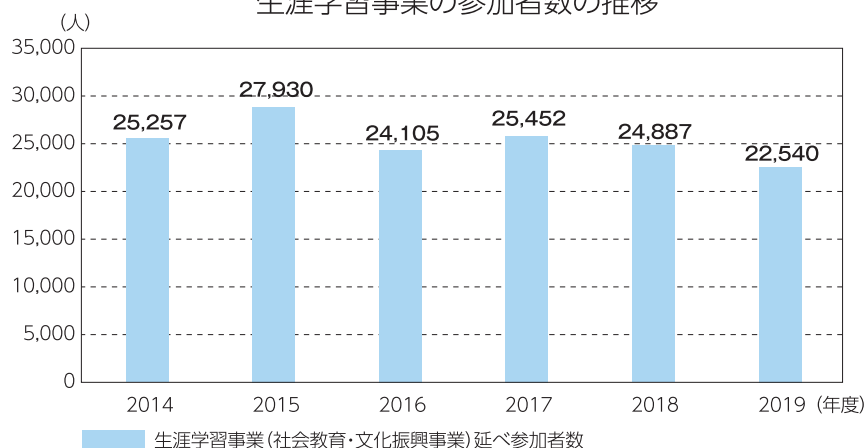


ふるさとまつり

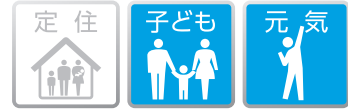
課題

- 若い世代を始めとする幅広い世代の住民が生涯学習講座等に参加できるよう、祝休日や夜間等、参加しやすい時間帯での開催や、その時々々のニーズに対応した講座内容にしていく必要があります。
- サークルや団体が自ら主体的に講座や催しを企画・実施する等、新たな人材を発掘できる環境をつくっていく必要があります。
- 若年層をターゲットにした講座・催しを企画し、参加を促すとともに、各団体のリーダーとなる人材を発掘する必要があります。
- 教えたい方、習いたい方のマッチングをサポートする方法等を検討する必要があります。
- 施設利用ルール(予約の方法、個人での利用の可否等)の周知、知多地域における生涯学習情報の提供等についても検討する必要があります。

生涯学習事業の参加者数の推移



重点施策方針



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 誰もがいつでも、いつまでも、気軽に生涯学習に取り組むことができ、世代や地域、立場を超えて交流できるまちを目指します。

成果指標

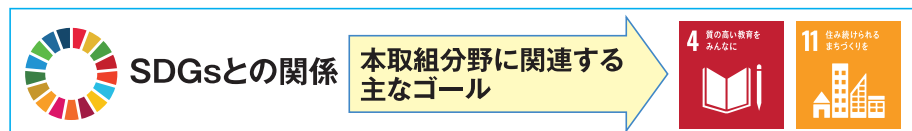
指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
生涯学習事業の参加者数	1年間の講座、イベントの参加者数	24,887人/年	25,500人/年	26,000人/年
趣味や教養、スポーツ活動を楽しんでいる住民の割合	町民意識調査で「趣味や教養、スポーツ等の活動を楽しんでいる」と回答した割合	52.9%	54%	55%
図書館の利用者数	1年間の利用者数	198,086人/年	199,000人/年	200,000人/年
中央公民館の利用者数	1年間の利用者数	90,754人/年	91,000人/年	91,500人/年

施策方針

(1) ライフステージに応じた多様な学びの機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージに合った講座や教室等の生涯学習プログラムの実施に努めます。 ②教えたい方と学びたい方をつなぐ方法を検討します。 ③図書館等、指定管理者の専門知識を活用しながら、使いやすい、学びやすい施設を目指します。 ④学べるところ(施設やサークル等)を明らかにして、学びたい方への情報提供を図ります。
(2) 学びの成果を活用できる機会づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ①住民や団体等が生涯学習関連施設をより気軽に使用できる仕組づくりを検討します。 ②学んだ知識やスキルを活かせる場に関する情報の提供を充実します。
(3) 学びの場、活動の場の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の事業の質を確保しつつ、生涯学習施設の今後のあり方を検討します。 ②施設や設備の老朽化に対応するため、計画的に修繕・更新を進めます。 ③施設や設備の保守点検を定期的に行い、施設や設備の長寿命化を図ります。
(4) 文化財・史跡等の保存と活用	<ul style="list-style-type: none"> ①壱町田湿地を始めとする指定文化財の保護・保存と活用を継続的に行います。 ②地域との協働により、文化財の維持を継続します。 ③山車まつりや伝統芸能を地域共有の財産として継承します。

関連計画

■第2次武豊町生涯学習基本構想(2011年度策定 生涯学習課)



3-3 スポーツ

現状と課題

現状

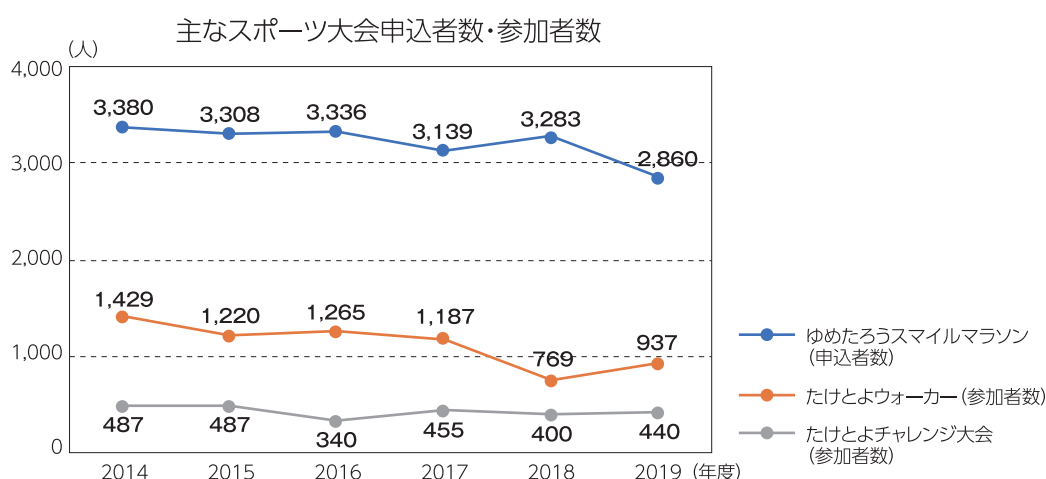
- 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催や体を動かす機会の充実を図っています。
- スポーツイベント開催時のボランティア不足が深刻化しており、新たな人材発掘が図れていません。
- 主にスポーツ協会加盟団体による教室・サークル活動を実施していますが、活動団体数が減少してきています。
- 総合体育館を始めスポーツ施設が住民にとって魅力的な集いの場、憩いの場となるよう、指定管理者制度を導入し利用者サービス向上に努めています。



たけとよスポーツDay

課題

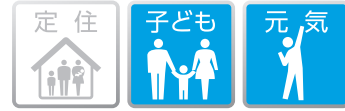
- スポーツイベント等の主な参加者は、子どもと高齢者が多いことから、幅広い世代が集まる仕組み、周知方法について検討する必要があります。
- スポーツイベント開催時等に一般ボランティアの募集をかけても集まりにくく、大学等関係機関と連携する必要があります。また、イベントの魅力向上及び事業改善を図る必要があります。
- 各サークルや団体は指導者の高齢化により継続自体が困難となっているため、各団体のリーダーとなる新たな人材を発掘する必要があります。
- 施設保全の観点に基づく計画的な施設管理や若年層を始めとした幅広い住民の利用促進策を検討する必要があります。



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 町内で行われるスポーツイベントやサークル活動に誰もが気軽に参加でき、多くの人と一緒に交流できるまちを目指します。

重点方針



成果指標

指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
ゆめたろうスマイルマラソン申込者数	イベントに申込んだ人数	3,283人	3,400人	3,500人
スポーツ施設(総合体育館、運動公園、弓道場、緑地グラウンド)の利用者数	1年間でスポーツ施設を利用した人数	204,058人/年	208,100人/年	212,300人/年
趣味や教養、スポーツ活動を楽しんでいる住民の割合	町民意識調査で「趣味や教養、スポーツ等の活動を楽しんでいる」と回答した割合	52.9%	54%	55%

施策方針

(1) スポーツ機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ①誰もが気軽に参加できるスポーツイベント、大会を実施します。また、各種スポーツ活動の活性化に努めます。 ②スポーツ協会各競技部が町民大会や教室等を開催することにより、スポーツのさらなる普及・振興を図ります。 ③指定管理者制度の活用により、今後も効率的かつサービス水準の高いスポーツ施設の管理運営を進め、利用者サービスの向上を図ります。 ④子どもから高齢者まで楽しめるニュースポーツ教室等を開催します。また、用具の貸出を行う等、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努めます。
(2) スポーツ団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ①各種大会、教室を開催するスポーツ協会、ジュニアの競技スポーツの推進を担うスポーツ少年団の活動に対し支援します。 ②総合型地域スポーツクラブの育成・支援に努めるとともに、指導者の育成を図り、住民の自発的、主体的なスポーツ普及活動を促進します。 ③ボランティアの「楽しさ」「やりがい」に配慮した運営をし、多くの方がスポーツボランティアに参加、活躍しやすい環境を整備します。
(3) スポーツ施設の整備及び充実	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校の授業での活用を始め、誰もが気軽に立ち寄ることができ、健康増進のための住民の交流拠点として集い憩える、屋内温水プール施設の整備を図ります。 ②施設や設備の老朽化に対応するため、計画的に修繕・更新を進めます。 ③施設や設備の保守点検を定期的実施し、長寿命化を図ります。 ④地域スポーツ推進のために、学校体育施設の活用に努めるとともに、民間スポーツ施設の利用を図ります。 ⑤地域スポーツ大会、イベントの開催や国内外のスポーツ大会の誘致を推進できるよう、スポーツ施設としての機能充実を図ります。

関連計画

■第2次武豊町生涯学習基本構想(2011年度策定 生涯学習課)

■第2期健康たけとよ21スマイルプラン(2012年度策定 健康課)

SDGsとの関係

本取組分野に関連する
主なゴール

3

すべての人に
健康と福祉を

4

質の高い教育を
みんなに

10

人や国の不平等を
なくそう

11

住み続けられる
まちづくりを

3-4 文化芸術

現状と課題

現状

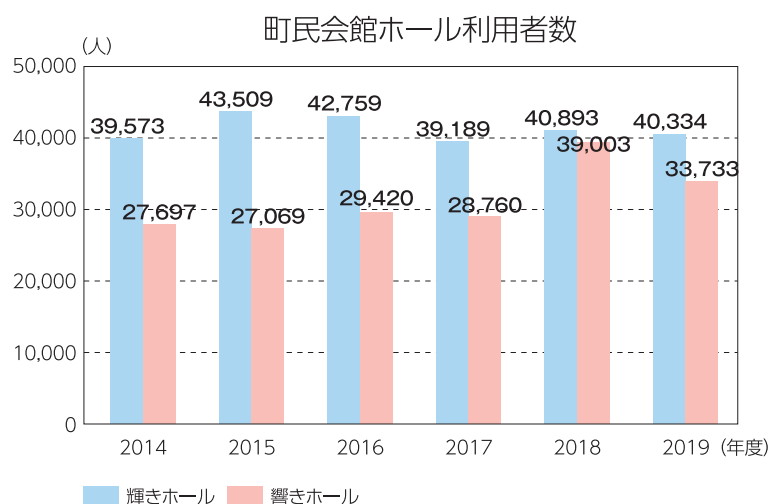
- 町民会館を始めとした文化施設がありますが、施設利用者の固定化が進み施設利用率が伸び悩んでいます。
- 文化芸術活動団体の加入者数が減少しているとともに、文化芸術関連のイベントや講座への参加者の固定化と高齢化が進んでいます。
- 町民会館、中央公民館等文化芸術活動の拠点となる施設の老朽化が進んでいます。



町民劇団 TAKE TO YOU

課題

- 若年層を始めとした幅広い年代の文化施設の利用促進策を検討する必要があります。
- 新たな人材の発掘・育成に取り組む必要があります。
- 幅広い世代が集まる仕組み、周知方法について検討する必要があります。
- 魅力的で利用しやすい文化施設としていくため、恒久的保全の観点から、施設の管理・修繕を進める必要があります。



施策の基本方針(施策が目指す姿)

- 誰もが気軽に文化芸術活動に触れ、参加でき、世代や地域、立場を超えて交流し、豊かな心を育むことができるまちを目指します。

重点施策方針



成果指標

指標	説明	現状値 (2018年)	中間目標 (2025年)	最終目標 (2030年)
文化振興事業の参加者数	町民会館での1年間の文化振興事業参加者数	16,354人/年	16,900人/年	17,400人/年
文化協会加入者数	文化協会へ加入している会員数	515人	520人	525人
町民会館利用率	町民会館全体の1年間の利用率	51.4%	55%	60%
芸術や文化に触れている人の割合	町民意識調査で「芸術や文化に触れている」に『はい』と回答した割合	34.4%	37%	40%

施策方針

(1) 文化芸術活動の 育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ①誰もが趣味や志向に応じて、気軽に文化芸術関係のイベントや講座等に参加できるような環境・機会の充実を図ります。 ②多くの住民が文化創造の喜びと生きがいを持てるようにするため、住民の日頃の学習や練習の成果を発表する機会・場の提供に努めます。 ③文化芸術活動を支える指導者や団体の育成を支援します。
(2) 多様な交流による 文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> ①文化芸術関係のイベントを開催する等、世代間や地域間の交流を深めるため、ボランティアや関係機関と連携し、新たな人材の掘り起こしができる環境を整備します。 ②特定の年齢層を想定したイベント・講座等に加え、多様な世代が交流し、集える機会を充実します。
(3) 文化・芸術・科学に触れる 機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①音楽、観劇や科学を住民が身近に感じられるよう、専門家や企業と連携した取組を推進します。 ②高いレベルの演奏家による学校アウトリーチ(学校でプロのアーティストや本物の芸術作品に触れてもらう)事業等、子どもや若者が文化をより身近に感じ、興味をもって文化に触れ、親しんでもらえる機会を創出します。
(4) 安全・安心で魅力的な 文化芸術活動の場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①施設や設備の老朽化に対応するため、計画的に修繕・更新を進めます。 ②施設や設備の保守点検を定期的を実施し、長寿命化を図ります。

関連計画

- 第2次武豊町生涯学習基本構想(2011年度策定 生涯学習課)
- 第2次武豊町文化創造プラン(2012年度策定 生涯学習課)

SDGsとの関係

**本取組分野に関連する
主なゴール**

4 質の高い教育を
みんなに

11 住み続けられる
まちづくりを